

朝倉市 松末復興かわら版

3会場 で住民説明会開催

朝倉市復興計画策定大詰め

昨年7月の豪雨災害への朝倉市復興計画の発表をまえに3会場で住民への説明会が開催された。2月17日午前甘木会場60名、午後杷木会場200名、翌18日朝倉会場240名の住民が参加した。

3会場ともに前半復興計画案説明、後半内容への質問、閉会後に個別質問受付であった。

■杷木会場 志波・久喜宮・杷木・松末) 2月17日(土) サンライズ杷木を会場に行われ、2時間20分で閉会した。

①災害公営住宅問題
問) 杷木小跡地に建設されることについて杷木



説明会会場の朝倉生涯学習センターには住民240名が参加した。

問) 杷木小跡地に建設されることについて杷木
答) 復興計画後では遅いのではないかと答へた。

②一時避難場所について
問) 集落内の住宅を一時避難場所にしたが市からの物資がまだ届かない。答) 要望は失念していない。出水期までに対応する。③出水期対策
問) 復興計画後では遅いのではないかと答へた。

④白木地区11/22の復興計画の回答まだだが、復興計画に入っているのか? 答) 地区からの要望は承知している。可能なものは復興計画に反映しており、それ以外は予算が確定したものでない。⑤久喜宮地区の生活支援について
答) 支援員を募集中⑥農地の説明会で激甚指定認可の有無について
答) 現在整理中で3月から職員が集落会議で照会に応じる。⑦志波地区よりスピード感の語句について
答) 本陣橋の拡張について
答) 検討が進んでいる。⑧隣接地区の協力体制について
問) 東峰村との連携が必要では? 答) 重要な指摘で今後検討する。⑨流木は林業政策の失敗ではないか
答) その成否の検討はしていない。

■朝倉会場 朝倉) 2月18日(日)
朝倉生涯学習センターで行われ、15分ほど時間を余して終了した。発言の大半が復興計画以外に関するもので、本質的な質問は少なかった。以下質問項目のみを掲載。復興計画に付随する

一つで地域防災計画では対応できないのでは? 個別にすべき質問
①果樹園への道路を至急お願いしたい。②ため池の普及工事は最優先でお願いしたい。③農業への補償について。
意見・苦情) ①発災当時市長はどこにいたのか? ②避難勧告と避難指示について。③みんな立派な文言を並べているが内容がない。④仮設住宅が決まるまでの経緯について⑤もっと具体的な話を聞きたかった。拍手
⑥委員長は3回あくびをして緊張感がたりないので、⑦縦割行政に対する苦情 拍手) ⑧説明は形式的で内容がない。

それなりの安全確保が必要。④今後河川と道路の復興計画が確定すれば、追加の公営住宅建設について場所と時期の回答が可能となる。⑤今後も松末地域の公営住宅要望がアンケートで確認されれば検討する。
■仮設住宅・みなし仮設支援2年について①今後の居住場所で迷って世帯が松末に多いことは承知。②みなし仮設住宅に居住している世帯数を考えると、83戸の災害公営住宅を建設したとしても2年で仮設住宅が不要になるとは思えない。③入居者が延長を前提にして暮らしたい気持ちは理解している。④しかし現段階で国から仮設住宅の延長について明言してもらえないので苦慮している。⑤もし松末に公営住宅が建設された時、杷木小の公営住宅から移ることは可能。

■住民アンケートについて①11月からのアンケートで公営住宅への入居希望は74世帯。②このときのアンケートでは公営住宅の場所については聞いていない。③全壊世帯は100%アンケートを回収し、それを根拠に国へ査定申請した。④今後もアンケートによる意向調査が根拠となる。⑤発災後半年を過ぎ、新たにアンケートを実施予定。今後アンケートが公営住宅建設の根拠となることを踏まえ、今後も回答してゆく必要があると思われる。

■農地の復旧について①認可範囲に入っているかの確認2/11らくゆう館で開催した農地に対する説明会で朝倉市が示した、一括で全損申請して認可された農地の範囲を示す地図が提示され、自分の農地が含まれているか確認して欲しい。②区画整理への参加の是非の決定③経費は1反あたり200万円〜250万円
の工事費だが、激甚指定された範囲は数%の負担の見込み。また工事費も残存土砂の活用や、河川や道路の復旧工事の併用を考えると工事費がもっと低くなる可能性がある。④減歩率は通常は20

住宅問題についての確認

住民説明会を受け2月22日市庁舎にて井上都市建設部長・日野都市計画課長から災害公営住宅の今後について聞く。

■建築戸数について①激甚災害指定による制限は全壊戸数が200戸以上。②杷木の市有地で現在建設できるのが54戸。
③松末・星丸団地の20戸立替分の助成は杷木小跡地に建設。④1回目の建設でより多くの戸数を提供するため集合住宅として。⑤今後の調査で住宅が不足するなら2次査定を受けて追加の助成をもら

う。⑥災害後なので一時的に公営住宅供給過剰になることは止むを得ない。
■助成期について①立替分は市の負担率数%で有利。②市としては市負担が少ないほうから先に使う判断となる。
■場所と時期について①現時点で旧杷木町で建設できる場所は杷木小学校跡地のみ。②久喜宮小跡地も50c㎡の浸水想定区域でそのままでは建設できない。③星丸松末団地のように今回被災した場所に再建する場合は、



年度末となり復興に関する手続きが錯綜している。2月25日の乙石3集落会議で伊藤会長からの連絡事項の中で松末全体に関わる項目を挙げる。

■農地の復旧について①認可範囲に入っているかの確認2/11らくゆう館で開催した農地に対する説明会で朝倉市が示した、一括で全損申請して認可された農地の範囲を示す地図が提示され、自分の農地が含まれているか確認して欲しい。②区画整理への参加の是非の決定③経費は1反あたり200万円〜250万円
の工事費だが、激甚指定された範囲は数%の負担の見込み。また工事費も残存土砂の活用や、河川や道路の復旧工事の併用を考えると工事費がもっと低くなる可能性がある。④減歩率は通常は20



乙石川沿いの3集落会議には40名以上の住民が集まった。

年度末 復興に関する連絡事項 自由選択

■自衛隊による流木撤去などの実施を2月22日に旧杷木町4コミュニティから朝倉市(副市長)に要請した。

■自主避難者支援について
また後日、みなし仮設に該当しない避難者(自力避難者)への支援を義捐金を用いて継続するように松末コミュニティから朝倉市(副市長)に要請した。※昭和56年以前の家屋・複数箇所への分散避難世帯などは支援に該当していない。

3月24日は松末小学校の閉校式です。しかしここにも縦割り行政の弊害が影を落としています。
閉校式は教育委員会主催。続いて門柱引渡し式は生涯学習課。こんな役割のたらい回しの中で、白石町からは三役が来てくれる。松末で失礼があつてはならない。住民の椅子はコミュニティで準備します。だから体育館を松末住民で埋めてください。



■新聞1月18日付 奇跡の門柱、里帰りへ
佐賀朝倉の小学校から佐賀白石町に漂着
昨年7月の九州北部豪雨で、佐賀県杵臼郡白石町の有明海沿岸に漂着した福岡県朝倉市の松末小学校の門柱が、3月に朝倉市へ返還される。川と海を約70キロ流され、大量の流木に交じって浮いていた門柱は町職員が偶然見つけ、数人がかりで引き上げていた。豪雨災害から5日で半年。朝倉市の関係者は、いまだ災害の爪痕が残る地域にとって、返還は復興の励みになる」と期待している。門柱は木製で、長さ約3メートル、根元の直径が約40センチ。2006年の市町村合併以前

市側は松末小の閉校式を提案し白石町からは田島健一町長や北村喜久次教育長らが出席を予定。市側は松末小の閉校式を提案し白石町からは田島健一町長や北村喜久次教育長らが出席を予定。市側は松末小の閉校式を提案し白石町からは田島健一町長や北村喜久次教育長らが出席を予定。



記事の詳細はスマホで

佐賀県白石町まで流れた門柱